



産業遺産と環境のまち

足尾のまちを歩けば、

「銅山のまち」として栄えた頃の面影がいたるところで見られます。

まち全体が、日本の近代産業発祥の頃を物語る博物館なのです。

そして、いま、煙害により失われた自然環境に
大きな光があてられています。

「産業遺産のまち」そして「環境のまち」足尾。
その四季折々の魅力を訪ねてみませんか。

足

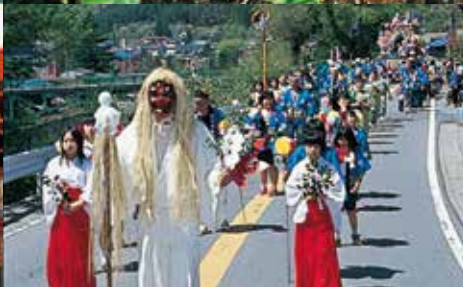
尾は、江戸時代から昭和にかけて、約四百年にわたり「銅山のまち」として栄えてきました。

慶長十五（一六〇）年に銅山が発見されて以来、幕府の管轄下におかれ、多くの労働者が採掘と製錬を行いました。江戸の中期には足尾千軒と呼ばれるほどの繁栄でした。

その後しばらく衰退しますが、明治十（一八七）年に古河市兵衛が経営に着手すると、先進的な技術と設備の導入により生産を急速に伸ばしました。明治二十（一八八）年代には日本産銅の四十%を産出する日本一の銅山となり、近代化を進める日本産業を支える礎の一つとなりました。

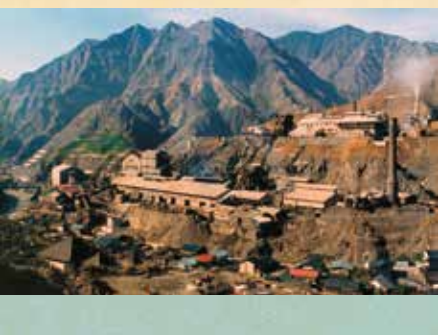
しかし、昭和になると、産銅量の減少と時代の流れの中で衰退の一途を辿り、昭和四十八（一九七三）年二月二十八日、遂にその長い歴史に終止符をうちました。

我が国の近代産業の先駆けとなった足尾には、数多くの貴重な産業遺産が残っています。また、最近では、銅山の発達に伴う煙害により破壊された自然環境に光があてられ、緑の再生に向けた積極的な取り組みが行われています。



あしお

まち全体が博物館のまち 足尾



この地区は愛宕下といい、明治40年代から製鍊所で働く人のため社宅がつくられ、赤長屋とも呼ばれていました。当時は火事が多かったため、建物の横に防火壁がつくられ延焼を防いでいました。壁の材料は銅製鍊のときに出る鉄分を多く含む副産物(カラム)を型に流し固めたものです。



大正8(1919)年に建てられた、
高さ約50m、直径が下部約6m、
上部約4mもある大煙突で、製
錬所のシンボルです。



日光山輪王寺を本寺とする天台宗のお寺です。坑夫の墓や、廃村となった旧松木村の先祖の無縁塔があります。



松本地域には中世以来3つの山村がありましたが、明治17年建設の直利橋製錬分工場から排出された亜硫酸ガスの影響や山林の乱伐、大火により住居は減少していき、明治35(1902)年には廃村となりました。



日本特有の貴重な草食動物
カモシカ

体高約 70cm・体重 30～40kg、
雄・雌とも黒色の短角があります。
日本特有の貴重な草食動物で、
昭和 30（1955）年に特別天然記念物に、
同 39（1964）年には栃木県の県獣に指定されました。



世界でも珍しい食虫植物
コウシンソウ

足尾のシンボルともいえる希少な植物。
庚申山の岩場のごく一部に自生し、
6月中旬頃にうすい紫色の可憐な花を咲かせます。
群生地が特別天然記念物に指定されています。



12 古河掛水倶楽部 (国登録有形文化財)

古河鋳業が足尾銅山の隆盛期の明治32(1899)年に建てた洋館です。迎賓館として、華族や政府高官を招いた際の接待や宿舎などに使用されました。館内には大正13(1924)年製のピアノや、国産第1号のビリヤード台もあります。平成18(2006)年に国の有形文化財として登録されました。



14 有越索道塔
町中央の通洞選鉱場裏山にそびえる高さ18mと25mの塔は、通洞選鉱場から出される廃泥を有越や水山堆積場まで運搬するためにつくられた索道の支柱です。



11 掛水赤煉瓦倉庫（国登録有形文化財）

足尾には、書庫や物品収納として使った赤レンガ造りの建造物が点在しています。掛水倶楽部前にあるこの建物は、重要書類等を収納していた鉱業所事務所の二階建て倉庫です。



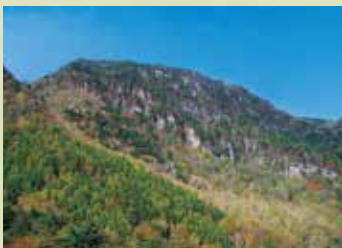
足尾駅周辺にあるこの社宅は、中央に足尾鉱業所所長の住宅があり、通称「掛水役宅」と呼ばれました。各部所の幹部職員の住む社宅で、今でも当時の佇まいを残しています。



足尾銅山発見の地 **備前楯山** びぜんたてやま

標高1,273m。もとは黒岩山といわれていましたが、備前国の農民2人が1610年に銅鉱を発見したことから備前楯山と名付けられました。登山口の舟石峠から遊歩道が整備され、山頂からは270度の眺望が広がります。日光山系男体山や袈裟丸山などの山容が見えます。

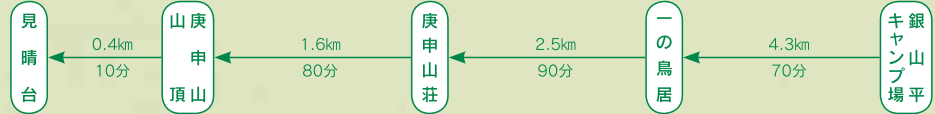
●トレッキングコース



古くから信仰の山とし崇められた霊峰

標高1,892m。古くから信仰の山として知られていて、江戸時代に建てられた道標や石碑が数多く残っています。「関東ふれあいの道」として登山道は整備され、筑波山や夜には遠く犬吠埼の灯が見えます。特別天然記念物のコウシンソウの自生地としても知られています。

●トレッキングコース



日本百名山の一つでもある足尾連山の

標高2,144m。群馬県との境に位置し、足尾連山の主峰。日本百名山の一つに数えられ、登山ルートも多方面からのルートがあります。手前の登山道からは上越の峰が一望できます。

●登山コース



産業遺産と環境のまち・足尾を訪ねて

江戸時代から昭和にかけて、約四百年間にわたり『銅山のまち』として栄えた足尾には、その記憶をとどめるたくさんの産業遺産が点在しています。

それらの遺産が語るメッセージを未来に伝えるために

「まち全体を博物館」とする構想のもと、様々な取り組みを進めています

さらに、銅を取り出すための製錬や森林の伐採

大火などによつて失われた山の緑を回復させようと

国や県、NPOが植樹作業にも取り組んでいます

そんな産業遺産と環境学習のまち・足尾を歩いてみませんか？

足尾銅山 ゆかりの人物



古河市兵衛
(1832—1903)

天保3(1832)年に京都の造り酒屋の二男として生まれた市兵衛は、若い頃から商才を認められ生糸貿易に手腕を発揮しました。その後、鉱山経営に乗り出し、草倉銅山(新潟県)、赤柴銅山(長野県)、幸生銅山(山形県)の経営に専念しました。

明治10(1877)年、当時経営不振が続いていた足尾銅山を買収し、陸奥宗光の協力や渋沢栄一の資金援助を受けて開発に当たりました。新技術の導入や近代化を図り、同20(1887)年には日本の全鉱産量の40%を占めるまでになり、市兵衛は日本の鉱山王といわれるようになりました。



田中正造翁
(1841—1913)

栃木県佐野市小中町(旧旗川村)の名主の家に生まれ、区会議員から県議員、そして衆議院議員となりました。

衆議院議員となつてからは、足尾銅山の鉱毒問題を繰り返し国会でとりあげました。しかし、国の政策に改善が見られないことから、明治34(1901)年、天皇に直訴しました。

その後、政府は渡良瀬川下流に鉱毒を受け止める貯水池を設置するため谷中村を強制廃村とし、ここを遊水地(現・渡良瀬遊水地)としました。政府のやり方を不服とした正造は谷中村に移り住み、農民とともに村の貯水池化に反対し続けました。政府による住居強制破壊の後も、死ぬまで谷中村から離れることはありませんでした。



国民宿舎かじか荘
足尾町銀山平 5488
TEL.0288-93-3420



亀村別館
足尾町銀山平 5488-4
TEL.0288-93-2218

肌がスベスベになることから、別名「美肌の湯」ともよばれています。泉質はアルカリ単純泉で、疲労回復、健康増進、神経痛、五十肩などに効能があります。

大自然と心温まるおもてなしをゆつくり堪能してください。

足尾天然温泉

庚申の湯



7 古河橋 (国重要文化財)

明治23(1890)年に完成した古河橋は、ドイツ人の設計による長さ50m、幅4.6mのトラス式鉄橋で、日本に現存する道路用鉄橋の中でも古いものに数えられるひとつです。



8 間藤水力発電所跡 (市指定史跡)

明治23(1890)年に造られた水力発電所。発電された電力は坑内電車・揚水機・電灯として利用されました。煉瓦造りの基礎と直径1mの鉄管の一部が残っています。



6 本山鉱山神社 (国指定史跡・市有形文化財)

明治22(1889)年に銅山の繁栄を願って、坑長以下、本山に働く坑夫一同からの寄進3,279円53銭によって造営されました。この神社を中心に銅山の繁栄を願って山神祭が行われるなど、人々の生活と一体となっていました。



5 本山製錬所跡 (国指定史跡)

銅山の歴史と共に歩んだこの製錬所は、常に日本にある製錬所の先端を行く製錬法をつくり出し、国内はもとより世界中からも注目を集めていました。昭和48(1973)年2月閉山。その後輸入鉱石を製錬していましたが、平成元(1989)年に完全に操業を停止しました。(写真右:昭和48年頃の様子)

日本初 in 足尾

明治16年●本山に日本初の洋式選鉱場を完成。

明治18年●本山坑口～本山選鉱場間に日本初のドコヴィール(インクライン)採用。

明治19年●民間初となる銅山私設電話が設けられた(23km)。

●水套式焙鉱炉を日本で初めて設置。

明治23年●細尾峠に日本初の架空索道(鉄索)が運転を開始し、馬車鉄道と連結。日光まで貨物輸送の大改革。

●間藤に水力発電所を開設し、日本で最初に電力を動力に応用。水源は深沢と松木川。

●有木坑堅坑に日本初の電気捲揚機を設置。

明治24年●本山～古河橋に日本初の電気機関車を運転。

明治26年●日本で初めての電気機関車が、通洞と松原の渋川橋間に運転される。

明治30年●有木・小滝坑内に日本初のトロリー式電気機関車を設置。坑内鉱石運搬用に運行開始。

明治31年●京子内に民間で日本初の亜硫酸の測候所を開設。(大正3年に渡良瀬に移転)

明治43年●通洞坑光盛第1堅坑8番坑に坑夫の昇降用巻き上げ機を設置。日本初の坑内大立坑での人員昇降が開始される。

大正元年●日本初の産業安全運動として「安全専一」を導入する安全第一の始まり。

大正3年●日本初の国産第1号となる小型鑿岩機「足尾式三番型」を工作課で考案。

大正10年●県内初のメーデーを足尾で開催。鉱山としても初。

昭和29年●町立幼稚園2園(足尾・本山)が開園。栃木県初の公立幼稚園。

小滝坑エリア



18 小滝の小滝

象山の下のカープ(象山の曲り)から見える小さな滝で、地名の由来にもなりました。すぐ下の山岳橋からの眺めも最高です。



17 小滝坑口 (市指定史跡)

昭和29(1954)年まで使われていた坑口。明治18(1885)年の旧坑道取り明けから約70年間銅を産出し続けました。



16 小滝浴場跡

坑内作業を終えた鉱夫たちが汗と汚れを落とした浴場跡からは、鉱夫たちの声が聞こえてくるようです。



15 小滝の里

小滝地域の中心だったところ。昭和29(1954)年に小滝坑が廃止され、すべての施設が撤去されました。同39(1964)年に当時の住民が記念碑を建立。現在は同61(1986)年に建て替えられた二代目の碑と、平成7(1995)年に建立された歌碑があります。



13 足尾キリスト教会 (国登録有形文化財)

イギリスの鉱山王グリーン・ビビアンは世界各国の首位鉱山所在地に教会を建てており、日本では足尾銅山が選ばれました。明治41(1908)年に献金された建設資金2,500円で建てられました。



9 波之利大黒天

日光開山の祖、勝道上人が中禅寺湖畔で修行中、毎年白鼠が穂をくわえてくるので、鼠の足にひも(緒)を結んで後を追うと、足尾の現在の大黒橋畔の洞穴に入っていました。その場所に波之利大黒を刻み、この地を足尾と名付けたといわれています。

